

研究経過

講師 兵頭恵子先生

(富士見幼稚園主任)

回	期 日	テーマ及び内容	会 場	人数
1	5月21日	5歳児って何？ ～発達の特徴を探る～	生涯学習プラザ	89名
2	6月18日	5歳児の環境 ～発達を踏まえた保育～	ユニオンビル	88名
3	9月10日	3・4・5歳の育ちを考える ～発達の連続性～	エポックなかはら	80名
4	10月22日	対話的保育の試み ～子どもと創る保育Ⅰ～	中原区役所	77名
5	11月19日	考える子ども・考える保育者 ～子どもと創る保育Ⅱ～	生涯学習プラザ	55名

◆研究参加園 (35園) ◆

江川幼稚園 川崎ふたば幼稚園 若宮幼稚園 ゆりかご幼稚園
 梅園幼稚園 小峰幼稚園 鹿島田幼稚園 サクラノ幼稚園
 平間幼稚園 太陽第一幼稚園 太陽第二幼稚園 宮内幼稚園
 若竹幼稚園 川崎めぐみ幼稚園 たちばな幼稚園 津田山幼稚園
 梶ヶ谷幼稚園 川崎めぐみ幼稚園 宮前幼稚園 有馬白百合幼稚園
 初山幼稚園 さぎぬま幼稚園 ひばり幼稚園 潮見台みどり幼稚園
 丸山幼稚園 菅幼稚園 東菅幼稚園 宿河原幼稚園
 桐光学園みどり幼稚園 桐光学園寺尾みどり幼稚園 柿の実幼稚園 川崎青葉幼稚園
 こうりんじ幼稚園 ちよがおか幼稚園

第1回 3・4・5歳の生活と5歳の育ち研究会

月日 平成20年5月21日

場所 生涯学習プラザ

講師 兵頭 恵子先生（富士見幼稚園主任）

テーマ：「5歳児って何？」

～発達の特性を探る～

俯瞰図番号 C1-I C1-II

- ・5歳児の育ちを取り入れたわけ
- 全日本私立幼稚園連合会から2年間の研究テーマである
- ・なぜ5歳児が取り入れられるようになったのか？
 - ①行政的な発想
 - ②教育的・保育的な発想

3・4歳があつての5歳児である。

3歳児は1年間の社会性を踏まえ、4歳児になる。自我が芽生える4歳児には褒めてあげる。又、自己主張期を経過し、5歳児になる。
→発達の連続性

- ・今回のテーマについて
「5歳児って何？～発達の特性を探る～」
教育要領
総則1・・・幼稚園教育は子どもの特性を踏まえて、環境を通して行うものである

◎幼稚園教育は子どもの特性を捉えて行う保育であり、保育者の特性を子どもに押しつけてはいけない

子どもの子どもによる子どものための保育
→スムーズに流れるよう保育者が援助していくことが必要である

5歳児の発達の特性を知る。それは現場にいる担任の先生が一番知ることができる。日常の保育を書き留め、1年間の変化を知ることが大

切である。

例) 3歳児のMちゃんが誕生会の手型を押そうとしなかった。理由を聞いても答えない。と兵頭先生に相談があった。

兵：嫌だったら違う色にしてあげたら？3歳児なんだし・・・。

(富士見幼稚園では黒を使用している)

保：先生押ししました！黒が嫌だったようで、ピンクを押ししました。

→子どもの心を読む、考える
できないことを子どものせいにするのではなくまずは評価・反省をする。

◎5歳児を満喫するには自分のクラスの子をよく知りながらどのような保育を展開し、どのように子どもたちと過ごしていけばいいのか、1人1人が自分のことについて考える。

◎保育をするにあたって子どもの心を知ろうとしたのか？
→何でも教えるのではなく、子どもの脳や心を揺さぶっていく。

生きていくことはどういうことなのか？仲間と一緒に折り合っていくということを3歳児の時から伝えていく。

「5歳児が考えるオリエンテーション」というビデオを見て、学ぶ。

- 感想を聞く
 - ・年長児にこんな話し合いができることを知った。
 - ・子どもたちが考えられるように保育者も一緒に援助しているのが勉強になった。
 - ・保育者が1人1人の思いを大切に受けとめている。普段の生活の積み重ねが経験になって次に繋がっている。

- ・3・4・5歳の学びを大切にしていきたい。

《まとめ》

- ・自と他の確立ができている。
- 困る、優しくする、思いやりを持つことは5歳児の特徴である。

- ・保育者同士で子どもの情報交換をしている。

→園で育つ。

- ・縦割り保育の大切さ。遊びを通して学んでいくことが大切。

- ・人を通して言語が発達している。

- ・個人ノートを作り、個々の成長や発達を知る。

第2回 3・4・5歳の生活と5歳の育ち研究会

月 日 平成20年6月18日

場 所 ユニオンビル

講 師 兵頭 恵子先生（富士見幼稚園主任）

テーマ：「5歳児の環境

～発達を踏まえた保育～」

俯瞰図番号 C3 - I C3 - II

4月からの子どもの特徴を1枚のカードに一事例書く

- ①いつ
- ②どこで
- ③誰が
- ④どうしたか

保育のエピソードを元に、子どものありのままの姿を書く。

→各グループバズ後、子どもたちの思いを中心に、事例を項目ごとに分類する。

- ・依存…保育者、友だち、ブランコ
- ・感覚…砂遊び、おだんご作り、水遊び

- ・興味…時計
- ・工夫…セロテープ
- ・推理・推測…手品
- ・技術…鉄棒、指先
- ・認識…物事の仕組み、ユーモア
- ・意欲…やってみたい、もう一回やりたい
- ・自己主張…自慢、やらせない
- ・仲間意識…協力、協同的
- ・その他…知恵、思いやり

☆8グループ発表

自己主張が多かった。

→保育者がつかまえたものを、自分がかまえたと言った。

☆3グループ発表

仲間意識が多かった。

→保育者の言うことをよく聞き、けんかの仲裁をする。

《まとめ》

○今回のようなバズを各園で行う

→話し合うことにより、他の保育者からのアドバイスをもらい、自分の保育を見直すことができる。

○そのときの子どもの様子を知り、次に何ができるかを考える。

→保育の計画を組み立てることにつながる。

保育の5領域

- ・人間関係
- ・環境
- ・言葉
- ・表現
- ・健康

をふまえ、日々の保育をする。

○4歳児は自己主張の時期。「やる気十分、実力不十分」そんな時にどのような保育をする

か。

時の記念日の保育の事例

子どもたちの興味、感心をふまえ、保育内容を考える。

時計を分解する

→子どもの心をゆさぶる保育をすることが大切。

◎子どもの興味、感心を引き出す保育を計画していくことが大切。保育者も知恵を出し合い、創意工夫し、子どもたちと保育をつくっていくことを心がける。子どもの心にそった保育をすることが重要である。

第3回 3・4・5歳の生活と5歳の育ち研究会

月 日 平成20年9月10日

場 所 エポックなかはら

講 師 兵頭 恵子先生（富士見幼稚園主任）

テーマ：「3・4・5歳児の育ちを考える

—発達連続性—」

俯瞰図番号 C1-III C3-III

○主題設定の理由

幼児期の育ちは、山登りと似ているのかもしれませんが、一步一步、今の足場を踏みかためながら、次の一步に前進していく。すなわち、乳児期から3歳児。そして4歳児から5歳児へと発達の連続性にそい前に進んでいく子どもたち。その特性をふまえながら幼児期ならではの学びを保育の中で生かしていく。そんな保育の内容を考えましょう。

○なぜ今5歳児か

- ・ 歳児の無償化、義務化が提案されている。認定子ども園の設立
保育園における5歳児の指導要録の義務化というような動きがあるなかで、幼保の足並を揃えようとする意見もある。
- ・ 5歳児保育の見直し、何が必要か、5歳児

の教育とは？

☆キーワード「幼児理解」（特性を踏まえ、環境を通して（教育要領第一章）

- ・ 5歳児の保育を考えた時、3歳児、4歳児の保育もしっかり考えなくてはいけない。カリキュラムありきではいけない。子どもの姿を保育者が見通し援助する。
- ・ 現場では子どもを理解し、子どもをどう見るかが大切になってくる。

○ビデオ鑑賞

「いっしょにやろうよ～ 伝え合う気持ち、5歳児」岩波映像

- ・ 東京都公立幼稚園、年長33名
- ・ 11月末の「子ども会」に向けて、出し物を5～7人のグループで話し合い組み立てる。
- ・ 人形劇を行うグループ（1グループ）の活動を通し葛藤・協力の姿をよみとる。

○内容

- ・ 場面1：女の子7人グループ、人形劇をやることになる
- ・ 2：人形がバスに乗って、動物園へ行き、お弁当を食べるというストーリーに決まる
- ・ 3：1人の女の子がお弁当を廃品で作りはじめ
- ・ 4：お客さんが来るホールに椅子等を並べ、舞台をつくる
- ・ 5：練習を始めると1人の子が見ている「お客さんがいた方がいいんじゃない」「練習だからいいの！」「でもお客さんがいた方がいいよ」「じゃあ連れてきてよ！」→ホールを飛び出し泣いているのかと思ったら、お客さんを大勢連れてくる
- ・ 6：看板をつくっていると、グループで1人の子がやらずに違うことをしている。そしてケンカになる。→保育者は、ごめんねと言っている子に「何か悪いことした

の？」と聞き、怒ることは悪いことではなく、言い方に気をつけるとよいと伝える。

- ・7：最後までお弁当を作らなかった1人の子が作り始めるとグループの子が応援する
- ・8：子ども会当日のようす

○ビデオをみた感想をとなりの人と話し合う。

(2、3人が発表)

- ・やらされているのではなく、自主的にやっている。ゼロから作っているので堂々としている。
- ・自分の思いをきちんと出している。
- ・言い方が強いだけで怒ってもよいと保育者が見逃さずに声をかけている。(ごめんねを言えばよいのではなく)

○兵頭先生よりビデオの読みとり

●個の育ち

- ・集団のなかでの個の育ちの素晴らしさ、これは3歳の時からやっていなければできない。
- ・どういう保育が必要か。→子どもの話を聞く、本当に聞いてあげているか、これは保育者との信頼関係ができていないとできない。→個の育ちに合っている保育をしているということ
- ・子どもの読解力、聞く力を養う。→聞く場話す場があって、自己確立ができる。

●友だちとの関わり

- ・話し合い→自分の意見を言うこと、人の意見を聞くこと、話し合うことによって違う意見があることを知る。
- ・刺激を受け咀嚼し自分の文化にする
- ・伝える、教えあう、協力する
- ・情緒の育ち(ケンカ)→公平で豊かな大人の関わり、折り合うことの大切さ

●つくり出すこと

- ・創造性(イメージ)がなければできない。5歳児には、それを実現できる技術がある

(つくり出す→工夫して考える)

●生きるための基本の力

- ・5歳児ならではの活動、5歳児の力がなければできない。
- ・力に合っている保育をしているか
- ・保育者は次に伸びるであろう先のことを的確に言いあらわしている。先を読む力、アドバイスが子どもに合っているか
- ・これまでの3歳、4歳の時に育てた先生がいるからこそ出来ている。先生同士の信頼関係もうまくいっている証。

○兵頭先生の読みとりを聞いて再びビデオ鑑賞

第4回 3・4・5歳の生活と5歳の育ち研究会

月 日 平成20年10月22日

場 所 中原区役所

講 師 兵頭 恵子先生(富士見幼稚園主任)

テーマ：「対話的保育の試み

～子どもと創る保育！」

俯瞰図番号 D1-1 C2-1

カリキュラムがあって保育を組み立てるのではなく、子どもの姿があって保育を組み立てていく。

「自動販売機」(さぎぬま幼稚園)というビデオを見て、学ぶ。

○兵頭先生よりポイントをしばって見るようアドバイス

- ①子どもの興味・感心はどこにあるのか
- ②なぜそのような興味・関心を持ったのか
- ③子どもは何を学んだのか

○ビデオを見て上浪先生より

→子どもたちから色んなアイデアが出てきたので、すごい自動販売機ができると夢を大きく見すぎてしまった。技術的にむずか

しいことも多く、子どもたちとつくって
いくにあたって自分自身も未熟だと感じ
た。話し合いやみんなで何かをやってみ
ようというのがきっかけで毎回探りなが
らやっていった。

子どもたちが話しているのを見て、この
子がこんなことを言うんだとか色々な
意見を持っていて子どもの力を見せられ、
教えられた。活動をどこにもっていこうか
常々悩んでやっていった。

(講師)

○兵頭先生より

Q.「自動販売機」のような保育をしてみて、2、
3学期変化したことは？又、発達をした所
を教えてください。

A. 色々な子が色々な意見を言うようになった。
人前で話すことがなかった子もこれを
機に人前で話すようになった。楽しかった
こと、悔しかったこと等も意見を言うよう
になり、成長を感じた。

自己発揮の時期

→保育者によって自己発揮させてもらったこ
とは、子どもにとって宝である。

○始めの3つのポイントを元にグループバズ
を行う。

☆2グループ発表

- ①自動販売機全体だけでなく、子どもの
目の高さにあるものや大人が気づかない
色々な感心を持っていた。
- ②おもしろそう、知らなかったから
- ③自動を作るのはむずかしい。物を作るには
ジュースを作る人、販売機をつくる人、色々
な人の手が加わっていることを学んだ。

☆4グループ発表

- ①販売機にひかれた。
- ②身近な題材、目で見て知っているがどう
やってジュースがでるか分からないこと

が多かったから。

③みんなで話し合いをすること、つくり上げ
ていく達成感を味わった。

→相手の意見を聞き入れる、自分の意見を言
う、賛同する

☆10グループの発表

- ①自動にひかれた。
- ②ジュースを入れる場所、運ぶ人等、見えな
い世界を見て販売機の中はどうなってい
るのだろうという探究心を持った。
- ③クラスのまとめり

◎子どもたちが発信したものの、やりたいと思っ
たことを保育にしていくと意見交換も活発に
なりクラスもまとまっていく。

《まとめ》

○自分の考えを伝える
→自分の考えを持っているということ
(3、4歳の生活の中に大事な要素が入って
いる)

○自分の考えを言語化する。

○人の中で話すことで空気が読めるようになる。
→自己表出ができて社会化できる。

○人の中で自分の役割を探し出せるようにな
る。(パーソナリティ)

○探求する力や心が育つということは、物の仕
組み、物の因果関係、関係性がわかってくる。

◎探求する心は、脳に刺激を与える。

○投合していく力がない子には、保育者の援助
が必要である。

第5回 3・4・5歳の生活と5歳の育ち研究会

月 日 平成20年11月19日

場 所 生涯学習プラザ

講 師 兵頭 恵子先生（富士見幼稚園主任）

テーマ：「考える子ども・考える保育者
～子どもと創る保育Ⅱ～」

俯瞰図番号 D1 - II C2 - II

「なんぎなたんけんたい」のビデオを見て学ぶ。

5歳児の何が発達しているか

- ・身体的発達（サッカー、さか上がり）
- ・社会的発達（物の仕組み）
- ・知的発達（理解する、場を読む、物の推理、因果関係）
- ・情緒的発達（悲しみ、切なさ、孤独感）

人との関係の中で人を慈しみ合うことができる。自分の意見があるから人の中で関わられる。

→自己主張できることが人とつながる第一歩。

幼稚園は大切なところである。

◎どのような保育をしていくか考えなくてはいけない。

→保育の組み立て方の工夫

今の子どもたちに何ができるか考える

○兵頭先生の解説を含め、発達を捉えながら再度、ビデオを見る。

- ・劇遊びに大切な事は創造性を広げる。
- ・イメージの共有化・共通化。
- ・保育をしていく中で、子どもの何を育てたいのか考えていく。

◎モデリングの大切さ（縦割り保育）

脳の一部にミラーニューロンがある。

- ・ミラーニューロンとは？

→憧れ・希望というような機能を持つ脳



人間の進歩

《まとめ》

○保育を組み立てていくのが保育者の大切な役割

○感性

- ・敏感に反応すること（一人一人を見つめる）
- ・適切に反応すること（どう子どもに対応するか）
- ・上品に反応すること（品格を持って）

○保育者として時には毅然として、子どもたちと共感していく。

○保育を組み立てていく誇りを持つ。

○感性を磨いていくことを忘れずに。